

議員事務事業評価シート（令和7年度事業）

作成日	令和8年8月4日
議員名	西田 一平

事業No.	421		
事業名	「山陰浜田港」水産物ブランド化推進事業		
担当課	水産振興課	所管委員会	産業建設委員会

■議員評価（各評価上段に○）

事業内容 の評価 (区分の説明)	廃止	○ 要改善		現行どおり
	(事業を廃止もしくは凍結)	(事業の内容や手法に改善や見直しが必要)		(事業の内容や手法はおおむね現行どおり)
予算規模 の評価 (区分の説明)	廃止	縮小	○ 現状維持	拡充
	(予算はゼロ)	(予算は縮小)	(予算は現状維持)	(予算は拡大)

■評価判定に至った理由

(事業内容について)
ブランド化の方向性自体は妥当であるが、成果指標である新規加盟業者数は目標未達が続いて現場いる。高齢化・後継者不足・漁獲量減少といった構造課題への対応がある中で新規加盟数の成果指標がそもそも必要なのか。加えて、補助金の使途が細分化され、機動的な販路開拓やPRがしにくいとの現場意見もある。事業は継続すべきだが、予算執行の柔軟性、後継者など人材育成の仕組みを見直す必要がある。
(予算規模について)
現時点では、まず既存予算の使い方を柔軟かつ効果的に見直すことを優先すべきであり、直ちに増額する段階ではないと考える。一方で、ブランド推進協議会の担い手不足や対外的な販路維持には一定の行政関与が必要であるため、予算を縮小すべき状況でもない。よって、予算規模は現状維持としつつ、執行方法の改善と成果検証を強めるべきである。

■改善・提案内容

※ 予算規模の評価を「拡充」とした場合は、財源措置の考えについても記入してください。
1. 補助制度の柔軟化 補助対象を細かく固定するのではなく、販路開拓・PR・商談対応に機動的に充てられるよう、一定の裁量を持たせた制度設計を検討する。 2. 後継者育成と組織体制の強化 ブランド推進協議会や関係事業者の人材が特定個人に依存しないよう、若手事業者の参画促進、役割分担の明確化、対外営業を担う人材育成を進める。 3. 成果指標の見直し 加盟業者数だけでなく、魚価向上、取引継続件数、首都圏等での販路拡大実績、PR施策ごとの効果など、実態を捉える指標を追加する。 4. 現場との定期対話 漁業者、加工・流通事業者、ブランド推進協議会との意見交換の場を定期化し、現場課題を事業改善に反映させる。

議員事務事業評価シート（令和7年度事業）

作成日 令和8年8月3日
議員名 今田 実延

事業No.	421	
事業名	「山陰浜田港」水産物ブランド化推進事業	
担当課	水産振興課	所管委員会 産業建設委員会

■議員評価（各評価上段に○）

事業内容 の評価 (区分の説明)	廃止		要改善		現行どおり			
	(事業を廃止もしくは凍結)		(事業の内容や手法に改善や見直しが必要)		(事業の内容や手法はおおむね現行どおり)			
予算規模 の評価 (区分の説明)	廃止		縮小		現状維持		拡充	
	(予算はゼロ)		(予算は縮小)		(予算は現状維持)		(予算は拡大)	

■評価判定に至った理由

（事業内容について）
浜田市ブランド推進協議会との意見交換会を実施した際、以下のことについて問題定義があった。 1. ブランド推進協議会を立ち上げて約20年経つが、行政や市議会との意見交換は初。 2. 予算が全盛期の1/4まで減額され、実質ボランティア状態。補助金の項目が細分化されており、好機に迅速な対応が困難。大枠予算化など柔軟性が必要。 3. ブランド推進協議会を立ち上げ時のメンバーが1名となり後継者不足が緊迫。浜田港全体を俯瞰し、豊洲等との「人対人」の信頼関係を継続できる人材育成が必須。
（予算規模について）
ブランド推進協議会との意見交換会でも現在の予算についての課題が示されており、予算額の妥当性を協議する前に、現在の予算に柔軟性があり、効率的に有効活用されているかについて検討する必要がある。有効活用されたうえで、予算規模の検討をすべきである。

■改善・提案内容

※ 予算規模の評価を「拡充」とした場合は、財源措置の考えについても記入してください。
1. 現場確認及び現場の声を拾い上げる仕組みづくり まずは20年間現場の声を聞くことができていない現状には問題がある。現場からの意見を拾い上げることや現場の過酷な労働環境の確認、取引先（豊洲市場等）への視察などの仕組みづくりは検討の余地がある。 2. 予算制度の柔軟化について お魚市場周辺でのイベントでなければ補助金が出ない等の条件を緩和し効率的かつ有効的に活用できる予算とする。 3. 後継者育成について ブランド推進協議会の現状は、渡邊氏1名に依存をしている状況であり、後継者育成も実施されていない。渡邊氏が当取組から外れた場合は、ブランド化が衰退することは間違いない。ブランド推進協議会を中間組織として確立し、「どんちっち3魚」や「浜田の四季のお魚」等のブランド化事業を一手に担う組織とする。

議員事務事業評価シート（令和7年度事業）

作成日

令和8年9月24日

議員名

岡山 令子

事業No.	当No. 421・実No. 210		
事業名	「山陰浜田港」水産物ブランド化推進事業		
担当課	水産振興課	所管委員会	産業建設委員会

■議員評価（各評価上段に○）

事業内容 の評価 (区分の説明)	廃止	要改善		現行どおり
	(事業を廃止もしくは凍結)	(事業の内容や手法に改善や見直しが必要)		(事業の内容や手法はおおむね現行どおり)
予算規模 の評価 (区分の説明)	廃止	縮小	現状維持	拡充
	(予算はゼロ)	(予算は縮小)	(予算は現状維持)	(予算は拡大)

■評価判定に至った理由

(事業内容について)

本事業は、魚価の向上や水産業の持続的な発展を図る上で必要な取組であると考えます。今後の水産振興を見据え、事業のさらなる拡充を図るとともに、既存の水産物のさらなるブランド化、ブランド化された商品の効果的なPRや販路拡大に取り組まれます。特に、「浜田といえばこの魚」と地域外の人にも認識されるよう、PR戦略を整理し、認知度向上や消費拡大につながる取組を持続的に展開されたい。

(予算規模について)

予算については、まず水産物のブランド化戦略を整理し、今後どのようなPRを行って行くのか、また、その取組をいかに持続的なものとしていくのかを改めて検討した上で、必要な事業内容と予算を設定されたい。戦略と事業内容を明確にした上で、効果的かつ継続的な予算配分を行われたい。

■改善・提案内容

※ 予算規模の評価を「拡充」とした場合は、財源措置の考えについても記入してください。

議員事務事業評価シート（令和7年度事業）

作成日	令和8年9月24日
議員名	遠藤 祐之

事業No.	421	
事業名	「山陰浜田港」水産物ブランド化推進事業	
担当課	水産振興課	所管委員会 産業建設委員会

■ 議員評価（各評価上段に○）

事業内容 の評価 （区分の説明）	廃止	要改善		現行どおり
	（事業を廃止もしくは凍結）	（事業の内容や手法に改善や見直しが必要）		（事業の内容や手法はおおむね現行どおり）
予算規模 の評価 （区分の説明）	廃止	縮小	現状維持	拡充
	（予算はゼロ）	（予算は縮小）	（予算は現状維持）	（予算は拡大）

■ 評価判定に至った理由

（事業内容について）
積極的に「山陰浜田港」の水産物のブランド化に取り組んでいる。
（予算規模について）
執行率80%とのことですので、現状維持でよろしいかと思います。

■ 改善・提案内容

※ 予算規模の評価を「拡充」とした場合は、財源措置の考えについても記入してください。

議員事務事業評価シート（令和7年度事業）

作成日	令和8年9月24日
議員名	花田 香

事業No.	当No. 421・実No. 210		
事業名	「山陰浜田港」水産物ブランド化推進事業		
担当課	水産振興課	所管委員会	産業建設委員会

■ 議員評価（各評価上段に○）

事業内容 の評価 (区分の説明)	廃止	要改善		現行どおり
	(事業を廃止もしくは凍結)	(事業の内容や手法に改善や見直しが必要)		(事業の内容や手法はおおむね現行どおり)
予算規模 の評価 (区分の説明)	廃止	縮小	現状維持	拡充
	(予算はゼロ)	(予算は縮小)	(予算は現状維持)	(予算は拡大)

■ 評価判定に至った理由

(事業内容について)
本事業は、魚価向上や漁業者所得の向上に寄与し、成果の見られる重要な事業であるので、今後も継続して推進すべきと考える。 が、数々の課題も見えたことにより、一つ一つ改善する必要がある。
(予算規模について)
現状維持で良い。

■ 改善・提案内容

※ 予算規模の評価を「拡充」とした場合は、財源措置の考えについても記入してください。

議員事務事業評価シート（令和7年度事業）

作成日	令和8年9月24日
議員名	戸津川美二

事業No.	当No. 421・実No. 210		
事業名	「山陰浜田港」水産物ブランド化推進事業		
担当課	水産振興課	所管委員会	産業建設委員会

■議員評価（各評価上段に○）

事業内容 の評価 （区分の説明）	廃止	要改善		現行どおり
	（事業を廃止もしくは凍結）	（事業の内容や手法に改善や見直しが必要）		（事業の内容や手法はおおむね現行どおり）
予算規模 の評価 （区分の説明）	廃止	縮小	現状維持	拡充
	（予算はゼロ）	（予算は縮小）	（予算は現状維持）	（予算は拡大）

■評価判定に至った理由

（事業内容について）
本事業は、水産業を基幹産業として位置付けている本市にとって重要な事業であると認識している。 事業を開始されてからかなり年数を経過しており、見直しなど活性化が必要と感じている。 担当委員会でヒアリング等され、課題を上げられ検証されており、業務の改善が必要と思われる。 執行部への提案項目7点については、時間の必要な項目から早急に対応改善すべき項目などあることからできることから、順次対応されたい。
（予算規模について）
予算規模については、現行どおりとする。なお、業務棟を見直しされて、拡充が必要な場合には、その時点で検討すべきと思われる。

■改善・提案内容

※ 予算規模の評価を「拡充」とした場合は、財源措置の考えについても記入してください。

議員事務事業評価シート（令和7年度事業）

作成日	令和8年 8月 4日
議員名	村木 勝也

事業No.	421		
事業名	「山陰浜田港」水産物ブランド化推進事業		
担当課	水産振興課	所管委員会	産業建設委員会

■議員評価（各評価上段に○）

事業内容 の評価 (区分の説明)	廃止	要改善		現行どおり
	(事業を廃止もしくは凍結)	(事業の内容や手法に改善や見直しが必要)		(事業の内容や手法はおおむね現行どおり)
予算規模 の評価 (区分の説明)	廃止	縮小	現状維持	拡充
	(予算はゼロ)	(予算は縮小)	(予算は現状維持)	(予算は拡大)

■評価判定に至った理由

(事業内容について) この度のヒアリングで私が感じたことをまとめた。 ・当該事業は、魚価単価を上げる、付加価値向上において、多大なる貢献のあった事業である。 ・漁獲量の減少により、市場が求める「安定的な供給」への不安がある。 ・事業者の高齢化や後継者不足に加え、船員の確保が困難である。 ・ブランド化を牽引してきた人材の次世代育成も急務となっている。 ・補助金の項目が限定的すぎて、機動的な活動がしにくい。 ・アジやノドグロに比べ、カレイのブランド化が遅れている。 ・観光、農林、水産といった行政組織間の連携不足が指摘されている。
(予算規模について) ・市は本事業は、浜田の水産業を将来にわたり支える「最重要施策の一つ」と位置付けています。→「山陰浜田港」のネームバリューを活かす。 ・当初から1/4となった予算を今一度見直し、新たな展開への投資(販路拡大、商品開発、海外輸出、水産高校連携、新船建造、冷凍冷蔵庫新設など)のためにも適切な予算措置が今後の議論の焦点になると考えられます。(補助対象事業の拡大含む。)

■改善・提案内容

※ 予算規模の評価を「拡充」とした場合は、財源措置の考えについても記入してください。 ・議会としても、生産者、仲買さん他関係者の方との意見交換の場を持つべきと考えた。 ・一次産業における「魅力」を若い世代に伝える方法を共に考えたい。 ・意見交換時に出た「六次産業化」としての一体的な取り組みを行政としても推進すべき。 ・予算拡充における財源は、継続、かつ、最重要施策として、現時点において、継続性から一般財源を考えました。ただ、言えることは、「六次産業」として、横断的に考えるにあたり予算確保が考えられないか。

議員事務事業評価シート（令和7年度事業）

作成日	令和8年 8月 4日
議員名	森谷 公昭

事業No.	421		
事業名	「山陰浜田港」水産物ブランド化推進事業		
担当課	水産振興課	所管委員会	産業建設委員会

■議員評価（各評価上段に○）

事業内容 の評価 （区分の説明）	廃止	要改善	現行どおり	
	（事業を廃止もしくは凍結）	（事業の内容や手法に改善や見直しが必要）	（事業の内容や手法はおおむね現行どおり）	
予算規模 の評価 （区分の説明）	廃止	縮小	現状維持	拡充
	（予算はゼロ）	（予算は縮小）	（予算は現状維持）	（予算は拡大）

■評価判定に至った理由

（事業内容について）

産業間バランスと過度な特定産業優遇

- ・市内（地域）の総生産（GDP約3,000億円規模）に対し、水産業の規模は約10億円程度にとどまり、全体の1%にも満たない。
- ・経済規模から見ても、水産業特定分野への偏重・過度な公的支援は妥当性を欠いている。

民間事業としての自己責任・自助努力の原則

- ・ブランド化や販路開拓は本来、民間事業者が自らの創意工夫と自助努力によって取り組むべき経営課題である。
- ・公金を投入して特定事業者の事業活動を肩代わり・補助し続ける予算規模は見直すべきである。

（予算規模について）

■改善・提案内容

※ 予算規模の評価を「拡充」とした場合は、財源措置の考えについても記入してください。

産業支援における公平性・平等性の確立

- ・水産関連企業も地域内に数多く存在する民間事業者の一社・一分野に過ぎない。
- ・特定業種のみを特別扱いするのではなく、行政支援を行うのであれば公平性・平等性の観点に基づき、市内全産業・全業種を対象とした公平な支援体系へと是正すべきである。

議員事務事業評価シート（令和7年度事業）

作成日

令和8年8月5日

議員名

大谷 学

事業No.	421		
事業名	「山陰浜田港」水産物ブランド化推進事業		
担当課	水産振興課	所管委員会	産業建設委員会

■議員評価（各評価上段に○）

事業内容 の評価 (区分の説明)	廃止		要改善		現行どおり			
	(事業を廃止もしくは凍結)		(事業の内容や手法に改善や見直しが必要)		(事業の内容や手法はおおむね現行どおり)			
予算規模 の評価 (区分の説明)	廃止		縮小		現状維持		拡充	
	(予算はゼロ)		(予算は縮小)		(予算は現状維持)		(予算は拡大)	

■評価判定に至った理由

(事業内容について)

担当者の長年の熱意と努力によって成果となっていることを感じ取れた。さらなるブランド化推進に向けた取組みの必要性を感じた。

(予算規模について)

■改善・提案内容

※ 予算規模の評価を「拡充」とした場合は、財源措置の考えについても記入してください。

予算施行にあたっては範囲など限定的な部分があり、ブランド化推進という大きな目的のためには予算を丁寧に設計する必要がある

議員事務事業評価シート（令和7年度事業）

作成日	令和8年9月25日
議員名	沖田 真治

事業No.	当No. 421・実No. 210		
事業名	「山陰浜田港」水産物ブランド化推進事業		
担当課	水産振興課	所管委員会	産業建設委員会

■議員評価（各評価上段に○）

事業内容 の評価 (区分の説明)	廃止	要改善		現行どおり
	(事業を廃止もしくは凍結)	(事業の内容や手法に改善や見直しが必要)		(事業の内容や手法はおおむね現行どおり)
予算規模 の評価 (区分の説明)	廃止	縮小	現状維持	拡充
	(予算はゼロ)	(予算は縮小)	(予算は現状維持)	(予算は拡大)

■評価判定に至った理由

(事業内容について)
本事業は「どんちっち」など浜田産水産物のPRや魚食普及、商品開発、販売促進を通じて、水産物の消費拡大とブランド化を推進するものであり、浜田の水産業振興に必要な取り組みである。今後も、魚食普及、消費拡大、ブランド化の取り組みを継続するとともに、限られた予算の中で事業のメリハリをつけながら、継続的な水産業PRにつなげていくことを求める。
(予算規模について)
現状通り

■改善・提案内容

※ 予算規模の評価を「拡充」とした場合は、財源措置の考えについても記入してください。
特になし。

議員事務事業評価シート（令和7年度事業）

作成日	令和8年9月24日
議員名	足立 豪

事業No.	当No. 421・実No. 210		
事業名	「山陰浜田港」水産物ブランド化推進事業		
担当課	水産振興課	所管委員会	産業建設委員会

■議員評価（各評価上段に○）

事業内容 の評価 (区分の 説明)	廃止	○ 要改善		現行どおり
	(事業を廃止もしくは凍結)	(事業の内容や手法に改善や見直しが必要)		(事業の内容や手法はおおむね現行どおり)
予算規模 の評価 (区分の 説明)	廃止	縮小	○ 現状維持	拡充
	(予算はゼロ)	(予算は縮小)	(予算は現状維持)	(予算は拡大)

■評価判定に至った理由

(事業内容について)
新規加盟業者数はR6が2店（目標5店）、R7が3店（同）で、2年続けて未達である。累計もR7目標22店に対し実績9店で、目標と実績の累計の起点も一致していない。さらに、廃業により加盟業者全体は減少しているとされ、新規数だけでは実態を表さない。目的は魚価向上だが、魚価や取扱額の指標はない。三魚の漁獲減で供給が不安定な中、PRの前に供給と加盟店維持の課題を整理した見直しが必要である。
(予算規模について)
総事業費はR6決算418万円→R7最終予算511万円→R8予算709万円と、2年で約1.7倍（R7比38.7%増）となった。成果指標が2年連続で未達の中での大幅増額であり、増額分の内訳（市外PR、豊洲市場関係者の招へい等）と期待効果の説明が必要である。一方、市の基幹産業である水産業の販路対策であり、事業規模自体は小さいことから、R8予算の水準を上限として現状維持とし、成果が確認できるまで更なる増額は行うべきでない。

■改善・提案内容

※ 予算規模の評価を「拡充」とした場合は、財源措置の考えについても記入してください。
1 成果指標の見直し：新規加盟数に加え、加盟業者の総数（純増減）、どんちっち三魚の取扱量・平均単価など、目的である魚価向上に直結する指標を設定すること。目標と実績の累計の起点を統一すること。 2 補助金ごとの効果検証：4つの補助金それぞれの交付額と実績を示し、効果の薄いものは統合・廃止を検討すること。 3 供給面との連携：三魚の漁獲減・加盟業者の廃業に対し、認証基準や対象魚種の在り方、事業承継支援を関係部署と一体で検討すること。 4 豊洲等の首都圏PR：招へい後の取引件数・取扱額を追跡し、R9予算に反映すること。

議員事務事業評価シート（令和7年度事業）

作成日	令和8年 8月 3日
議員名	川上 幾雄

事業No.	421		
事業名	「山陰浜田港」水産物ブランド化推進事業		
担当課	水産振興課	所管委員会	産業建設委員会

■ 議員評価（各評価上段に○）

事業内容 の評価 (区分の説明)	廃止	要改善		現行どおり
	(事業を廃止もしくは凍結)	(事業の内容や手法に改善や見直しが必要)		(事業の内容や手法はおおむね現行どおり)
予算規模 の評価 (区分の説明)	廃止	縮小	現状維持	拡充
	(予算はゼロ)	(予算は縮小)	(予算は現状維持)	(予算は拡大)

■ 評価判定に至った理由

(事業内容について)
構造的な問題が多く存在し、この問題を解決することが必要と判断する。内容については以下の5点である。現場との連携不足が見受けられる。実質KPIが存在しておらず、成果検証ができない。ブランド戦略と水産業の産業基盤が接続しておらず供給力の弱体化対応が不足。中長期戦略が存在しておらず場当たりの見受けられる。協議会のガバナンスが弱く、事務局機能が属人化し制度として脆弱である。
(予算規模について)
問題点はあるが、事業内容の改善を促す意味で現状維持と判断する。問題点については以下の4点である。予算の柔軟性が極めて低く制度設計の欠陥が事業効果を阻害している。事業者側も増額より柔軟性の確保を求めている。KPIが未整備なため予算拡充の妥当性判断ができない。制度改善（包括補助金化・事務局機能強化）が優先。

■ 改善・提案内容

※ 予算規模の評価を「拡充」とした場合は、財源措置の考えについても記入してください。
事業内容は「要改善」。予算規模の「現状維持」については、以下5点の改善が進むことを期待してのものである。ブランド推進協議会の事務局機能を行政側へ移管し、属人化を解消する。予算制度を包括補助金化し、場所・形式に縛られない柔軟運用を可能にする。水産課職員の高める現場視察を義務化し、産業基盤の理解を高める。供給略維持（船団維持・人材確保・設備更新）をブランド戦略の前提条件として制度化する。KPIを設定し、事業報告を毎年度作成する仕組みを導入する。

議員事務事業評価シート（令和7年度事業）

議員名

柳楽 真智子

事業No.	当No. 421・実No. 210		
事業名	「山陰浜田港」水産物ブランド化推進事業		
担当課	水産振興課	所管委員会	産業建設委員会

■議員評価（各評価上段に○）

事業内容 の評価 (区分の説明)	廃止	要改善	現行どおり	
	(事業を廃止もしくは凍結)	(事業の内容や手法に改善や見直しが必要)	(事業の内容や手法はおおむね現行どおり)	
予算規模 の評価 (区分の説明)	廃止	縮小	現状維持	拡充
	(予算はゼロ)	(予算は縮小)	(予算は現状維持)	(予算は拡大)

■評価判定に至った理由

(事業内容について)

商品開発販売支援は目標5件に対して実績が2件であったことから、支援のあり方の見直しが必要と考える。
また、活性化補助金については、PR方法についても検討が必要と考える。

(予算規模について)

執行率が約81%となっており、予算に余裕があることから現状維持。

■改善・提案内容

※ 予算規模の評価を「拡充」とした場合は、財源措置の考えについても記入してください。

議員事務事業評価シート（令和7年度事業）

作成日

令和8年9月24日

議員名

串崎 利行

事業No.	421		
事業名	「山陰浜田港」水産物ブランド化推進事業		
担当課	水産振興課	所管委員会	産業建設委員会

■議員評価（各評価上段に○）

事業内容 の評価 (区分の説明)	廃止		要改善	現行どおり	
	(事業を廃止もしくは凍結)		(事業の内容や手法に改善や見直しが必要)	(事業の内容や手法はおおむね現行どおり)	
予算規模 の評価 (区分の説明)	廃止	縮小	現状維持	拡充	
	(予算はゼロ)	(予算は縮小)	(予算は現状維持)	(予算は拡大)	

■評価判定に至った理由

(事業内容について)

浜田産魚の消費拡大にむけて、補助金の検証が必要。

(予算規模について)

現在のボリューム事業では、現状維持。

■改善・提案内容

※ 予算規模の評価を「拡充」とした場合は、財源措置の考えについても記入してください。

成果指標や予算の柔軟化について検討。

議員事務事業評価シート（令和7年度事業）

作成日	令和8年9月24日
議員名	小川 稔宏

事業No.	当No. 421・実No. 210		
事業名	「山陰浜田港」水産物ブランド化推進事業		
担当課	水産振興課	所管委員会	産業建設委員会

■ 議員評価（各評価上段に○）

事業内容 の評価 （区分の説明）	廃止	要改善		現行どおり
	（事業を廃止もしくは凍結）	（事業の内容や手法に改善や見直しが必要）		（事業の内容や手法はおおむね現行どおり）
予算規模 の評価 （区分の説明）	廃止	縮小	現状維持	拡充
	（予算はゼロ）	（予算は縮小）	（予算は現状維持）	（予算は拡大）

■ 評価判定に至った理由

（事業内容について）
首都圏におけるどんちっち3魚の知名度向上や魚価の向上にも大きく貢献し、所得向上にもつながっており、浜田市の水産振興にとって大変重要な事業である。にもかかわらず各種取組に必要な経費を自己負担されている現状には問題がある。持続可能性の観点から見ても公費負担とすべき部分は公費で賄えるよう検討が必要である。
（予算規模について）
現状維持

■ 改善・提案内容

※ 予算規模の評価を「拡充」とした場合は、財源措置の考えについても記入してください。
熱意を持った業者に対しては、必要に応じ効果的な支援ができる仕組みが必要である。きめ細かな支援が行えるためにも担当課や議会（委員会）との定期的な意見交換により現場の課題に即応できる連携体制が求められる。

議員事務事業評価シート（令和7年度事業）

作成日	令和8年7月30日
議員名	笹田 卓

事業No.	421			
事業名	「山陰浜田港」水産物ブランド化推進事業			
担当課	水産振興課	所管委員会	産業建設委員会	

■議員評価（各評価上段に○）

事業内容 の評価 (区分の説明)	廃止	要改善	現行どおり	
	(事業を廃止もしくは凍結)	(事業の内容や手法に改善や見直しが必要)	(事業の内容や手法はおおむね現行どおり)	
予算規模 の評価 (区分の説明)	廃止	縮小	現状維持	拡充
	(予算はゼロ)	(予算は縮小)	(予算は現状維持)	(予算は拡大)

■評価判定に至った理由

(事業内容について)	
本事業は、浜田市の基幹産業である水産業において、水産物のブランド化による付加価値向上を図り、魚価向上や漁業者所得の向上につなげる重要な施策であり、今後も継続して推進すべき事業である。 ブランド推進協議会へのヒアリングでは、「ブランド事業は絶対に必要」との意見があり、「どんちっちブランド」は市場で高い評価を受け、ブランド化以前と比較して魚価が大幅に向上したほか、生産者だけでなく仲卸や流通事業者を含めた地域水産業全体への波及効果が生まれていることが確認できた。 一方で、成果指標は加盟事業者数を中心としており、本来評価すべき魚価や販売額、漁業者所得などの成果が十分に把握できていない。また、加盟事業者数が伸び悩んでいる要因は、ブランド制度ではなく、漁船数の減少や高齢化、人手不足による安定供給の課題にあることも明らかとなった。 このため、事業自体は必要であるが、成果指標や事業内容を見直し、水産振興施策全体と連携した、より実効性の高い事業へ改善を図るべきである。	
(予算規模について)	
本事業は、水揚量の増加が見込みにくい現状において、魚価向上による漁業者所得の確保を実現するための「投資」であり、重点的に推進すべき事業である。 現場からも、首都圏への販路拡大や「浜田フェア」などのブランドPRは高い効果があるとの評価を得ており、ブランド価値向上のためには継続的な情報発信や販路開拓が不可欠である。 今後は、「どんちっちブランド」の更なる価値向上に加え、「浜田港四季のお魚」など浜田産水産物全体のブランド戦略を推進し、魚価向上と地域経済への波及効果を高めるため、必要な予算は重点的に確保すべきである。	

■改善・提案内容

※ 予算規模の評価を「拡充」とした場合は、財源措置の考えについても記入してください。	
① 成果指標については、加盟事業者数だけでなく、魚価、販売額、漁業者所得、ブランド認知度など、事業効果を適切に評価できる指標へ見直すこと。 ② 「どんちっちブランド」の更なる価値向上に加え、「浜田港四季のお魚」など浜田産水産物全体を活用したブランド戦略を推進し、地域全体の付加価値向上を図ること。 ③ 首都圏を中心とした販路開拓や「浜田フェア」などのブランドPRを継続・強化し、ブランド価値向上と販路拡大につなげること。 ④ ブランド事業を単独施策とせず、担い手確保、漁業者支援、水産加工、流通対策など水産振興施策と一体的に推進すること。 ⑤ 浜田市水産物ブランド化戦略会議や市場関係者との連携を強化するとともに、議会や関係団体との意見交換の機会を設け、現場の課題や意見を事業へ反映すること。 ⑥ 水揚量が減少する時代においては、「量」から「付加価値」への転換を水産政策の基本方針として位置付け、ブランド化による魚価向上を水産振興の柱として推進すること。	
予算規模を「拡充」とした財源措置の考え方 ブランド事業は、単なるPR事業ではなく、水産物の付加価値向上によって魚価や漁業者所得を高める成長投資である。 そのため、新たな一般財源に依存するのではなく、水産振興関連予算の重点配分を行うとともに、国・県の地域ブランド化や販路開拓、水産振興に係る補助制度、企業版ふるさと納税等の外部財源を積極的に活用すべきである。 また、ブランド力向上による魚価の上昇や、ふるさと納税返礼品の付加価値向上によって地域経済への波及効果を生み出し、その成果を再び水産振興へ投資する好循環を構築することが重要である。 浜田市の水産業は、水揚量を競う時代から、付加価値を高めて稼ぐ時代へ転換しなければならない。本事業はその中核となる施策であり、成果を適切に評価できる仕組みに改善した上で、重点的に推進すべきである。	

議員事務事業評価シート（令和7年度事業）

作成日	令和8年9月24日
議員名	岡本 正友

事業No.	当No. 421・実No. 210		
事業名	「山陰浜田港」水産物ブランド化推進事業		
担当課	水産振興課	所管委員会	産業建設委員会

■議員評価（各評価上段に○）

事業内容 の評価 (区分の説明)	廃止	要改善		現行どおり
	(事業を廃止もしくは凍結)	(事業の内容や手法に改善や見直しが必要)		(事業の内容や手法はおおむね現行どおり)
予算規模 の評価 (区分の説明)	廃止	縮小	現状維持	拡充
	(予算はゼロ)	(予算は縮小)	(予算は現状維持)	(予算は拡大)

■評価判定に至った理由

(事業内容について)
PR補助、活性化補助、どんちっちノドグロ学校給食事業、お魚検定等は、「山陰浜田港」の認知度向上や魚食普及につながる取組として評価する。 一方、商品開発・販売支援については取組件数が少なく、今後のブランド化を進める上では、より積極的な支援が必要である。特に、地域の水産事業者だけでなく、飲食、食品加工、観光、商業等の異業種との連携を促進し、新たな発想による商品開発を進めることが重要である。
(予算規模について)
現行の予算規模を基本としながらも、今後の「山陰浜田港」ブランドの発展と将来的な販路拡大を考え、商品開発・販売支援については重点的に予算を拡充し、取組件数を増やす必要があると考える。

■改善・提案内容

※ 予算規模の評価を「拡充」とした場合は、財源措置の考えについても記入してください。
商品開発支援を重点化し、支援件数・予算を拡充するとともに、異業種との連携や情報交換の場を設ける。さらに、インターネットやAI等のデジタル技術を積極的に活用し、市場ニーズの把握、商品企画、販路開拓、情報発信まで一体的に支援する仕組みを構築する。

議員事務事業評価シート（令和7年度事業）

作成日	令和8年9月24日
議員名	芦谷 英夫

事業No.	当No. 421・実No. 210		
事業名	「山陰浜田港」水産物ブランド化推進事業		
担当課	水産振興課	所管委員会	産業建設委員会

■ 議員評価（各評価上段に○）

事業内容 の評価 （区分の説明）	廃止	要改善		現行どおり
	（事業を廃止もしくは凍結）	（事業の内容や手法に改善や見直しが必要）		（事業の内容や手法はおおむね現行どおり）
予算規模 の評価 （区分の説明）	廃止	縮小	現状維持	拡充
	（予算はゼロ）	（予算は縮小）	（予算は現状維持）	（予算は拡大）

■ 評価判定に至った理由

（事業内容について）
生産者、流通事業者、加工事業者、飲食事業者が一体となって事に当たる態勢をつくる ことが重要である
（予算規模について）
現行の予算の範囲内で事業の見直しを行い、各事業効果の最大化を図り、各事業間の連 携、新しいことへの展開などメリハリのある執行に努める

■ 改善・提案内容

※ 予算規模の評価を「拡充」とした場合は、財源措置の考えについても記入してください。
行政として安定した漁獲高を確保することを第一とし、外来船の誘致も含め、生産者、流 通事業者、加工事業者、飲食事業者の人材確保、経営安定に助力し、浜田市のブランド化 を確立する

議員事務事業評価シート（令和7年度事業）

作成日

令和8年9月24日

議員名

佐々木豊治

事業No.	当No. 421・実No. 210		
事業名	「山陰浜田港」水産物ブランド化推進事業		
担当課	水産振興課	所管委員会	産業建設委員会

■議員評価（各評価上段に○）

事業内容 の評価 (区分の説明)	廃止	要改善		現行どおり
	(事業を廃止もしくは凍結)	(事業の内容や手法に改善や見直しが必要)		(事業の内容や手法はおおむね現行どおり)
予算規模 の評価 (区分の説明)	廃止	縮小	現状維持	拡充
	(予算はゼロ)	(予算は縮小)	(予算は現状維持)	(予算は拡大)

■評価判定に至った理由

(事業内容について)

浜田港の知名度向上に、もう少し民間意見も聴取しながら事業構築に取り組んでほしい。

(予算規模について)

■改善・提案内容

※ 予算規模の評価を「拡充」とした場合は、財源措置の考えについても記入してください。

議員事務事業評価シート（令和7年度事業）

作成日	令和8年9月24日
議員名	西田 清久

事業No.	当No. 421・実No. 210		
事業名	「山陰浜田港」水産物ブランド化推進事業		
担当課	水産振興課	所管委員会	産業建設委員会

■ 議員評価（各評価上段に○）

事業内容 の評価 (区分の説明)	廃止	要改善		現行どおり
	(事業を廃止もしくは凍結)	(事業の内容や手法に改善や見直しが必要)		(事業の内容や手法はおおむね現行どおり)
予算規模 の評価 (区分の説明)	廃止	縮小	現状維持	拡充
	(予算はゼロ)	(予算は縮小)	(予算は現状維持)	(予算は拡大)

■ 評価判定に至った理由

(事業内容について)
この事業は、水産物の水揚げ量と並行して推進される要素もあり、魚食普及に関しては特に力を入れるべきものと思う。
(予算規模について)
現状維持

■ 改善・提案内容

※ 予算規模の評価を「拡充」とした場合は、財源措置の考えについても記入してください。

議員事務事業評価シート（令和7年度事業）

作成日	令和8年9月24日
議員名	川神 裕司

事業No.	当No. 421・実No. 210		
事業名	「山陰浜田港」水産物ブランド化推進事業		
担当課	水産振興課	所管委員会	産業建設委員会

■議員評価（各評価上段に○）

事業内容 の評価 (区分の説明)	廃止	要改善		現行どおり
	(事業を廃止もしくは凍結)	(事業の内容や手法に改善や見直しが必要)		(事業の内容や手法はおおむね現行どおり)
予算規模 の評価 (区分の説明)	廃止	縮小	現状維持	拡充
	(予算はゼロ)	(予算は縮小)	(予算は現状維持)	(予算は拡大)

■評価判定に至った理由

(事業内容について)
「どんちっちブランド」等水産ブランド化による魚価向上、浜田市のイメージ向上に大きく寄与した重要事業と認識している。今後も事業における制度改善を行いつつ継続することが望ましいと考える。
(予算規模について)
字義用内容に関しては様々な改善が求められるが、予算規模に関しては当面現行通りでよいと思う。制度の充実や具体的な事業拡充に伴い予算は見直しを行う方向で良いのではないかと考える。

■改善・提案内容

※ 予算規模の評価を「拡充」とした場合は、財源措置の考えについても記入してください。
補助制度に関しては、販路開拓をはじめ現場の関係者が柔軟に活用できる制度へ拡充する必要があるのではないかと考える。またブランド推進協議会の組織体制強化・後継者育成に対しても事業強化をすべきである。